

抱えるリスク（支援内容と創業者のニーズの乖離や、ネットワークメンバーと創業者のコミュニケーションの齟齬等々）に対応するため、外部人材に対しては、創業者や地元の声にしっかりと耳を傾け、決して自分たちの経験や考えを押し付けたりしないよう当初から徹底させたこと。そして「地元」に対しては、そうした外部人材の存在をさめた目で見るとはならず、彼らを支え援助する役割を持たせたこと。

それによって両者が相互を尊重する信頼関係ができています。

多様な人材が集まるシステムそのものが魅力に

もう一つ、先に紹介したオーガニックカフェ創業者の指摘からも、読み取れるものがある。

「人から人に紹介してくれるので、自分たちでは分からない答えが見つかるようになったし」、「人と人の間の距離感が近くて」「新鮮な発見や驚きがある」。

これらの指摘からは、ネットワークメンバーが創業者の問題解決に活路を見出すために、自らの限られた対応力の範囲内に情報を滞留させず、外に広く協力を求めることによって外部の知見を活用していたこと、創業者の利益を第一に考えていたことを、読み取ることができる。

今回の江津市の調査から、我々調査班はネットワーク支援の方向性についてヒントをもらった。

それは、危機感が支援の本気度に関係するということであった。

地元の信用金庫のスタッフが我々に語ってくれた話は、とても興味深かった。

「一つの支援機関という枠の中で創業を応援していけば、それはそれで責任を果たしていることになるでしょう。でもこのままでは江津や浜田から産業が消え、我々の存在自体も消えてしまうかもしれない。そんな状況で自分たちの組織の殻に閉じこもることは、自己の存在を否定することになります。

だからうちは地域に関わります。そしてこの地域のために貢献してくれるのなら誰であろうと大歓迎です。その人を我々は支えますし、その人と一緒に汗を流します。

我々の究極の使命は地域発展への貢献だからです。我々は当たり前のことをする。ただそれだけのこと」

こうした考え方と姿勢に、我々も共感することができた。実際にネットワークで活動している若い支援者の言葉も、我々にとって強く印象に残った。

「『なんでこの街に、こんな凄い人がいるの?』と驚きました。でもその人に惹かれたというんじゃなくて、そういった凄い人がたくさん集まってきて、『俺もこういった人たちと一緒に仕事をするのが楽しいな』とってしまうような、この街の魅力やシステムが凄いなと思ったからだと思うんです」

なるほど、何人かの支援のエキスパートの姿に惹かれて彼はここで活動しているのではなく、そうしたエキスパートを引き寄せる同市の柔軟な発想や、それを実行しようとする地元の人たちの姿勢に

惹かれたのであろう。

少数のキーパーソンに成功要因を求めるのではなく、そういった人を惹きつける魅力を地域自体が身に付けるのが重要だということを、今回のヒアリングから我々調査班は学ぶことができた。

今後最大鍵は「地元とのつながり」

最後に、複数のネットワークメンバーから共通して指摘された今後の課題についても言及しておきたい。

それは「創業者と地元のつながり、及び、支援者と地元のつながりが不足している」ということであった。

我々外部の目からすると、これらの間のコミュニケーションがかなり進んでいるところがこの街の特徴であり、このネットワークの特徴に見えた。そのため、この指摘は当初意外に感じられた。

しかし、このコミュニケーションを深化させていく取り組みには終わりが無い。彼らはそこを指摘していたことに後で気づいた。

同時に、同市のネットワークメンバーにとっては、この課題を追及していくことが引き続き重要であるということも、理解することができた。